

「地震だ」まず火を消せ

出火防止と初期消火

地震による被害を最少限にいくとめるには、第一に火災を発生させないこと、第二に発生した火災は、ばやのうちに消しとめることです。

そのためには、消火の備えと消火のコツを身につけ万一火災が発生したときには勇気と適切な行動で初期消火を行う必要があります。

(1) 身の安全と火の始末

建物がはげしくゆれているときは、落ちてくる身の安全を図り様子をみている。

地震のときの激しい震動は長く感じますが、測ってみればおおむね一分間以内で終わるので、揺れがおさまれば行動できるように、揺れが止まれば火を消す。はじめから行動できる程度の揺れなら、火の始末を先にしましょう。

(2) 火災を防ぐチャンスは三回は三回

(ア) 大ゆれの前の小さな上下の動きを感じた段階で早目に火の始末をする。

(イ) グラツときたら火の始末をする。

(ウ) 火災は状況により異なりますが、火元―周囲の可燃物―カーテン、ふすま壁―天井と燃えうつるまで三分―五分かかるので

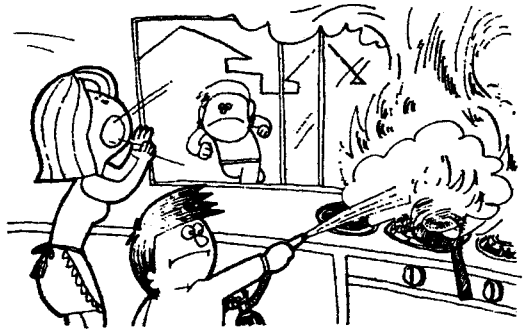


『灯油・食用油』
油火災は、粉末消火器などで消

(3) 場合別初期消火テクニク

大ゆれがおさまってから消してもおそくはないので、あきらめずに消す。
石油ストーブによる火災でも出火後二分程度以内ならば、小火のうちに消火できることが、実験上わかっているため、あわてず、確実に消す。

何が燃えているかで、消し方もちがう。火元は何か、揺れや炎や煙にまどわされず、たしかめ、できるだけ火元に近寄って消す。



直接水をかけると、油が飛び散って危険なことがあるので、注意しよう。

油なべに火が入ったときは、まずガスなどの元せんをしめる。消し方にはつぎのような方法があります。

(ア) 消火器で消す。

(イ) 大量の野菜や、ぬれ布を一口气にかぶせ油温を下げて消す。

(ウ) 大きなフタを手前の方からすべらせて空気を断って消す。

石油ストーブが倒れたときは、油が広がらないよう、引きおこす。消し方にはつぎのような方法があります。

(ア) 消火器で消す。

(イ) 燃えている上からバケツの水を一気にかぶせるようにして消す。

(ウ) 毛布などをかぶせ、その上から水をかけて消す。

『電気器具や配線』

電気火災は、感電の危険があるので、ブレーカーを切る。コンセントを抜く、スイッチを切る等して、電流を断ってから消火しよう。

『ふすま、板壁、家具』

木材や紙の火災は、消火器でも消せますが、水で消すことが最も効果的です。

『ガス器具』

ガスストーブ、コンロなど、ガス器具からの火災は、ガスの元せ

山梨県消防設備協会 郡内支部が発足!!

県内の消防用設備等の業務に関係する事業者、消防設備士、消防設備点検資格者で構成している、社団法人山梨県消防設備協会の郡内支部設立総会が、昭和五十五年七月十五日都留市消防本部三階会議室において、都留市消防本部、富士五湖消防本部、大月市消防本部、上野原町消防本部の管内の協会会員の代表が参集し、来賓として都留市消防本部石川消防長を始め各消防本部よりご臨席をいただき、また協会本部より遠藤会長、青柳常務理事も出席して開催された。

を推進するとともに、消防用施設関係の業務に携わる者の技術向上育成を図ることによつて、火災予防ならびに火災による生命財産の被害を軽減し、社会公共の福祉の増進に寄与するための事業を進めておりますが、事業の遂行には地区消防機関等との密接な連絡協調が必要であり、また会員相互の連携、サービス向上を図り協会基盤の強化を行なうため、この度郡内支部が発足いたしました。

- 支部長 源生 道雄
- 副支部長 白木 昭夫
- 高村 弘一
- 桑原 伴治